

経済倶楽部便り

◆東京◆ 経済倶楽部食堂の委託先を10月から(株)ノアスタッフに変更しました。喫茶、お食事に新基軸を加え、旧来以上のサービスができるように努めていきます。詳細は事務局にお問い合わせください。

さて10月の講演会には、牧野邦昭氏(摂南大学経済学部講師)・石橋湛山賞受賞記念講演)、柴田明夫氏(丸紅経済研究所代表)、菱沼久美子氏(Euro Medi Com Japan 代表)、原田泰氏(大和総研顧問、東京財団上席研究員)をお招きします。

新会員を紹介します。(順不同) 井上純之助氏、大山稔氏、川崎大八・S M B Cフレンド証券 証券アドバイザー、須藤秀一郎・あいおいニッセイ同和損害保険特別顧問、野田忠男・中央不動産特別顧問、半田隆志・埼玉県産業技術総合センター主任。(塚田 紀史)

◆中部◆ 浜岡原発停止問題以来、名古屋地域の災害対策に改めて関心が高まっています。当地では名古屋城のある熱田台地の地盤が固いことが知られ、徳川家康もそれを知って水害に弱い清洲から都市機能を移転させました。実際、古代の地図を見ると、名古屋城が位置する熱田台地の西側、つまり現在の名古屋駅周辺は海で、名古屋駅の隣の駅名も枇杷島です。そこで、名古屋の都市計画では駅以东に都市機能を集める一方、駅以西は耐震機能をより強固にするというのが定石です。名古屋市助役だった田淵寿郎氏による戦争直後の100^年道路作りなども災害に強い都市作りの一環とも言えます。こうした点が再評価される時、日本の人口の3分の1が集中し、災害時の甚大な被害が想定される首都圏からの都市機能の移転も考えられます。

10月の講演会は長谷川幸洋氏(東京新聞論説委員)、中岡望氏(東洋英和女学院大教授)、上杉隆氏(フリーライター)の3氏を予定しています。(日暮良一)